神戸大学大学院保健学研究科
地域連携センターとは

兵庫県は今後、人口減少・超高齢化の加速が一層深刻となると予測されており、子育て高齢化問題への対策は急務です。
出産・子育て支援を充実させ地元の若返りを図るとともに、健康寿命の延長を図り高齢者の社会参画に努める必要があります。
保健学研究科地域連携センターは、看護師・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師等の養成課程が連携し、多職種によるより効率的な少子高齢化社会に対応した地域支援活動を実施していく中で、地域住民の多様な健康や環境づくりの課題に対応できる能力のある人材を育成することを目指します。

少子高齢社会だからこそ

少子高齢社会が語られて久しくなります。
そして、その状況は既に始まっているようです。たとえ他人と違ったところがあったとしても、たとえ障害を持っていたとしても、かけがえのない「命」に違いはありません。皆が生きる意味を持ち、役割を持って生きています。
それら「意味」や「役割」を大切だと思うからこそ、寄り添っていけると信じています。
少子高齢化は社会にとって経済的には負担かもしれませんが、人々にとって大切にしなければならないものがはっきりしてきたと考えれば、数えきれない財産を持っていることが分かります。
人は財産です。大切にし、はぐくむための健康や環境づくりはたくさんあるはず。
無理のない範囲で、少しずつでも歩んでいきたいと思っています。

私たちが目指すもの

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターは、

- 教育と研究を通して、自宅で生活される方々の健康や環境づくりを応援します。
- 歴史的文化環境や自然環境を大切にし、住民や学生の活力を引き出すことに努力します。
- 神戸大学地域連携推進室の理念にしたがい、保健学研究科教員と自治体やNPOの連携窓口となります。

それぞれの活動では、

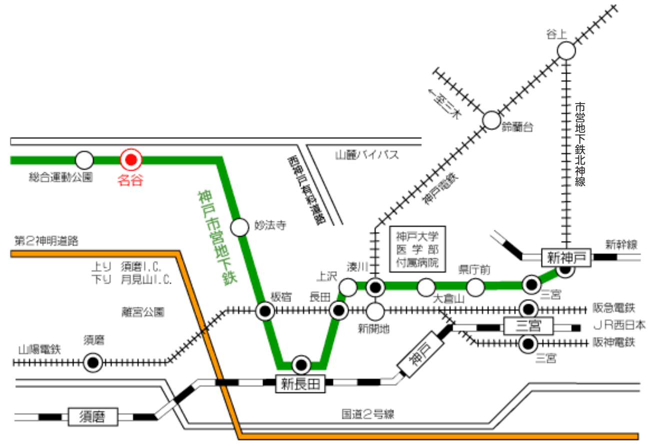
- 対象者や連携団体だけでなくスタッフを含めて人権を尊重し、等しく支援できるように努めます。

神戸大学では、教育と研究と並ぶ第三の使命として、社会との連携及び協力をより重視していくこととしており、人的・物的資源の活用（理工系に限らず、人文・社会科学系を含む）知的成果の社会への還元に積極的に取り組んでいます。

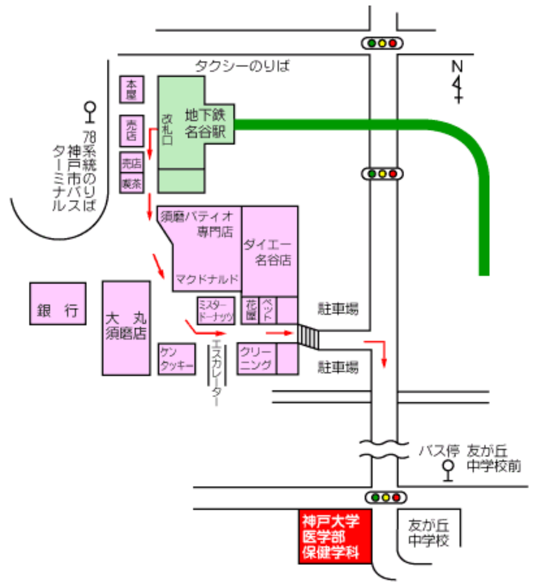
保健学研究科地域連携センター概要

- **開設**
  2003年6月
- **センター長**
  和泉　比佐子（神戸大学大学院保健学研究科 教授）
- **副センター長**
  林　敦子（神戸大学大学院保健学研究科 准教授）
- **事務局**
  〒654-0142 神戸市須磨区友が丘 7-10-2
  神戸大学大学院保健学研究科 地域連携センター内
- **協力機関**
  神戸市発達障害者支援センター／神戸市総合児童センター／神戸市健康局／北須磨自治会
- **提携自治体**
  神戸市・丹波市・三田市

交通アクセス



神戸市営地下鉄「名谷駅」下車、南東へ徒歩 15 分
（神戸市市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約 20 分）



神戸市営地下鉄「名谷駅」下車
　徒　　歩：南東へ 15 分
　バ　　ス：神戸市バス 78 系統
　　　　　　「友が丘中学校前」下車徒歩 3 分
　タクシー：名谷駅から約 5 分

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター
https://www.edu.kobe-u.ac.jp/fhs-renkei/

2024.3

神戸大学大学院 保健学研究科
地域連携センター

Kobe University Graduate School of Health Sciences

Regional Collaboration Center

神戸大学大学院保健学研究科
地域連携センター

11の事業と取り組み

事　業

1. 就学前の発達障がい児とその家族に対する支援事業

『ぽっとらっく』は、主に就学前の “発達が気になる子ども” と家族のための教室です。この教室では、保護者が発達障がいについて学ぶ「講習会プログラム」と、保育士や特別支援教育経験のある教員の指導のもとで学生ボランティアの託児を行う「子どもプログラム」を実施しています。

現在はオンライン開催および神戸市立青陽須磨支援学校での対面開催を併用しながら、月1回（3月を除く）、第2土曜日の午前中に行っています。

また、8月には就学後の発達障がい児の保護者を対象に「就学後の集い」を実施しています。

2. 医療と福祉の連携による障がい者への生活支援事業

地域の障害者福祉施設のケアスタッフと連携を取りながら、施設利用者の生活支援において生じる課題に取り組むとともに、利用者が地域で安心して生活できることを目指して様々な活動に取り組んでいます。

主な活動として、学生ボランティアによるレクリエーションや生活援助、外出支援等の支援活動、学習会やケース相談等ケアスタッフの実践力向上のための支援活動、施設が主催する地域交流事業における付添いボランティアや保健学科の専門性を活かした活動の実施などの後方支援を行っています。

3. 地域高齢者・認知症の方とそのご家族への支援事業

地域高齢者、在宅認知症高齢者とご家族を対象に、「その人らしさと尊厳ある社会」に焦点をあて、市民および医療福祉専門職者の協働による認知症予防・治療・介護を中心とした支援活動に力を注いでいます。

事業として、(1) 地域高齢者・家族及び医療福祉関係者への認知症についての啓発・実践力向上支援のための研修会・講演会の開催、(2) 地域高齢者へ向けた認知症予防のための年1回のタッチパネルを用いた認知症検診・検診後の相談を行っています。

4. 自治体の保健事業支援

少子高齢社会に適した地域づくりを目指して、自治体における効果的な保健事業の展開のために、地域の健康課題の明確化、保健計画の立案や評価について支援活動を行っています。また、地域保健活動を担う自治体保健師のキャリアラダーに基づく人材育成についても支援を行います。

この事業は2018年度より開始し、PDCAサイクルに基づく保健活動や人材育成計画についての研修会や個別支援を行い地域連携を推進しています。

5. 子宮頸癌啓発活動

子宮頸癌は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因となり発症します。この癌は、20歳台後半から急増し、年間約3,000人が命を落としています。子宮頸癌は定期的な検診で防ぐことができますが、日本の検診受診率は先進国の中で最低となっています。そのため、HPVと子宮頸癌の関係や検診の重要性などについて啓発活動を行っています。

6. 家族支援相談事業

「家族お悩み相談室」では、在宅療養に関するご家族の困りごと相談、慢性疾患をもつ家族員がいるご家族の療養相談などを行っています。家族支援に精通する家族看護の専門職者が、ご家族と一丸となり、ご家族が抱える悩みや困難を解決に導くさまざまなツールを用いて、家族全体の幸福と家族機能を高める最適なサポートを実施しています。

2017年10月より完全予約制（無料）で、大学への来所、家庭訪問、ソーシャルソフトウェアやビデオ会議ソフトウェアを使用したオンラインで家族支援の相談を実践しています。

7. ふれあいスポーツチャレンジ事業

神戸市北区にあるしあわせの村にて、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会が主催する小学校1-2年生の “発達が気になる児童” とその保護者を対象とした運動教室「のびのび運動ひろば」に連携して取り組んでいます。

教室では、運動全般が苦手で不器用な子どもを対象として、走る、投げる、跳ぶといった基本的な体の動かし方を遊びながら身につけることを目指します。専門スタッフ、サポートスタッフ、学生ボランティアがひとりひとりの児童のペースに合わせてサポートしています。

保護者に対しては、発達障がいや家庭で運動を行うヒントについて学ぶ「保護者プログラム」を実施しています。時期を区切った複数回の連続プログラムで子どもだけではなく、保護者同士の意見交換や交流を促進する機会としています。

8. 精神障害・発達障がい者をサポートする NPO法人のサービス向上に向けた支援事業

地域で暮らす障害をもつ人を実際に支えるのは、病院や施設ではなく、小さな民間団体です。NPO法人中央むつみ会は、地域で40年を越えて多くの地域在住の障害をもつ人を支援し、神戸市から事業委託も受けています。多くの障害をもつ人が支え、支えられ、共に成長してきました。保健学科の教育に、利用者の中で精神障害をもつ人が参画しています。法人におけるサービス向上を目的に、職員の専門性を高めるため医療・リハビリテーションの視点で研修を定期的に実施しています。つまり利用者は教育に参画し、教員はその利用者を支える職員の教育に参画するという連携を継続しています。

9. 地域の子どもの居場所づくりボランティア

横尾ふれあいのまちづくり協議会の “横尾子どもの居場所つくり「あさひ教室」” に、学生たちがボランティアとして協力しています。神戸市子どもの居場所づくり事業として地域の方々によって運営されている「あさひ教室」は、地域の小学生を広く受け入れ、学習支援や遊びを通して地域の中で子どもたちの育ちを支え、見守る場所になっています。そこに大学生・大学院生である学生たちが加わることで、多世代交流の場にもなっています。学生は学習支援の部分を中心にお手伝いをし、子どもたちの放課後を見守っています。

10. 地域の小学校における保健室ボランティア

神戸市にある学校で、養護教諭の先生と連携・協働し、保健室を訪れる児童・生徒の勉強をみたり、話し相手になったりするなどのボランティア活動を行っています。

児童・生徒が保健室を訪れる理由としては様々であり、各児童・生徒のニーズにあわせた関わりを行っています。

またこのような関わりを通して、ボランティアに参加する大学生も様々な背景を抱える子どもたちへの支援や学校保健について深く考える機会になっています。

11. ハイリスク児を持つ親への育児支援事業

極低出生体重児（出生体重1,500g未満の赤ちゃん）と家族を対象とした教室「YOYOクラブ」は、平成26年度に創立20年を迎えました。全国に先駆けた育児支援事業として神戸市ですっかりと定着しています。

年間を通して、通常クラス（計20回程度）に加え、夏祭り・遠足・クリスマス会を実施しています。親子教室は、神戸市総合児童センターにて毎週火曜日午前中に開催しており、修正3か月～ 2歳6か月までのお子さんを対象としています。

教室には、神戸大学医学部保健学科の学生や保健学研究科の大学院生、甲南女子大学臨床心理学科の大学院生などがボランティアスタッフとして参加し、貴重なフィールドともなっています。

取り組み

地域連携センター主催セミナー

〔**地域連携センター報告会**〕

地域連携事業の取り組みを学内外に広く知っていただくため、年1回保健学研究科地域連携センターの報告会を開催しています。

この報告会は保健学研究科が進めている地域連携事業の活動を紹介するとともに、学生・教員・関係組織及び自治体等多くの方々の参画と協働を目標に開催しています。